

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

ドル円はジリ安の公算 (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 武富 龍太

今週のドル円予想レンジ **103.50 ~ 105.00**

りそなWEEKLY COLUMN

GoToキャンペーンとかけて資産形成と説く (P3)

りそな銀行 総合資金部
有価証券チーム

- 「走りながら考える」という手法を取ったGoToキャンペーン
- まずは行動を起こし、その反応を見ながら軌道修正するというのは投資も同じ
- 「投資は自己責任」というのは自分の手で選択をすることを通じて自分の人生に責任を持つ意識が増すという良い一面も

2020/11/17

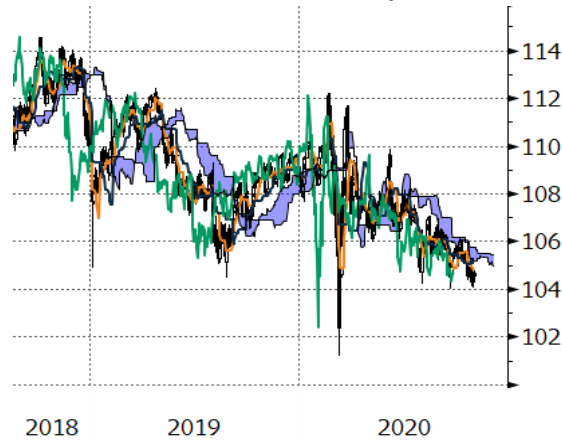
りそな外為レポート

ドル円はジリ安の公算

今週のドル円予想レンジ **103.50 ~ 105.00**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

先週は、米国のねじれ議会継続への懸念がワクチン開発進展期待にかき消され、世界的に株高・金利上昇の流れとなった。為替市場では、安全通貨とされる円が売られる展開となったが、今年に安全通貨の仲間入りした米ドルは売られることなく、結果として値幅を伴う円安ドル高が起こった。ワクチン開発に伴うコロナ終息期待は、景気の早期回復を連想させただけでなく、米金融引き締め転換の前倒しを意識させたことで、米ドルは売られなかった模様。

しかし、パウエルFRB議長はワクチン実用化に伴う景気楽観論を諷める発言をしたため、今後金融引き締め転換の前倒し観測は起こりづらいと考える。今週以降もワクチンの治験結果は断続的に公表されるだろうが、リスク選好時は米ドル売りが再開すると予想する。

足許では、ワクチン開発期待を受けた円売りの反動から、コロナ感染者数増加を受けたリスク回避時にもドル買い・円買いとなっていることから、目先のドル円はジリ安の公算が高い。

(カスタマーディーラー 武富龍太)

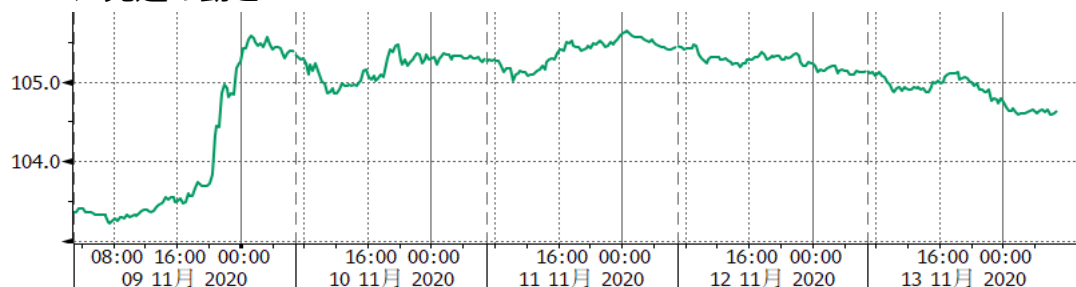
◆今週の日程

16日(月)日	20/3Q GDP1次速報	18日(水)米	10月住宅着工・許可件数
16日(月)中	10月生産・小売・投資	18日(水)米	20年国債入札
17日(火)米	10月小売売上高	19日(木)米	11月フィラデルフィア連銀製造業指数
17日(火)米	10月鉱工業生産	19日(木)米	10月中古住宅販売
18日(水)日	10月貿易統計	20日(金)日	10月CPI

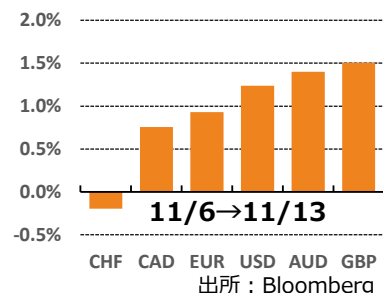
◆今週の予想 (ドル高 強い↑ 普通↑ ドル安 強い↓ 普通↓) NY引け値 11月13日(金) 104.63円 VS 11月20日(金)

東京									大阪			埼玉					
井口	中根	石川	湊	小新	鳥井	田中	中里	伊藤	村永	小林	鈴木	武富	上野	小林	津田	石井	佐藤
休	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↓	↓	休	↓	↓	↓	休	↑	↑	↓	↓

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/11/17

りそな WEEKLY COLUMN

GoToキャンペーンとかけて資産形成と説く

りそな銀行 総合資金部
有価証券チーム

未知のウイルスに世界が翻弄されておよそ1年。私たちは再び冬の季節を迎えようとしている。

GoToキャンペーンの 対応に感じたこと

これまで日本政府は制御不能な感染拡大を未然に防ぐため、感染状況に応じて外出や営業活動の自粛を要請してきた。一方、それによって収入が落ち込んだ個人や企業に対しては、「特別定額給付金」や「持続化給付金」といった経済対策を打ち出してきた。また今年7月には、日本政府によるもう一つの経済対策「GoToキャンペーン」が段階的に実施されている。

GoToキャンペーンの展開を巡る政府の動きについて、筆者は政府に対してこれまでと異なる印象を受けた。一般的に、一つの政策を実行に移すには長い期間を要する。政策に関係する組織間の調整が要因であったり、予算配分の難しさであったり、背景は様々だ。しかし、GoToキャンペーンにおける政府の対応は迅速であった。その後の一連の動きと併せて、筆者は「やればできるじゃん」と強く感じた。政府はこのキャンペーンに関して、まず政策を実行に移してその動向を観察し、問題が生じる度に運営の軌道修正をおこなうという、いわば「走りながら考える」手法を取ったのである。

この手法は、刻々と状況が変化する、あるいは状況の見極めが難しい事象に対して有効である。あらゆる可能性を考えて、あらかじめその芽を摘んでおき、それから計画を実行に移すのではいつになるか分からない。どれだけ考えても想定外は発生する。まず行動を起こし、その反応を見ながら対策を講じる方法は、ときに合理的な考え方となることもある。

また、この考え方は資産形成に踏み切れない人たちの背中を後押しする。日本人の平均寿命は今や80歳を超えた。「2000万円問題」に代表される、老後に備えた資産形成の必要性を説く論調は人々の不安を掻き立てる。しかし、それでも今一つピンと来ず、資産を全て銀行預金に置いている人は多いのではないだろうか。資産が減ってしまうかもしれない、考える時間がない等、漠然としたよく分からなさが背景にあると思う。ただ、こうした不安のすべてに対して答えが出る日は恐らく来ない。こういう時こそ、上述の発想が重要なのである。

もちろん、やみくもに投資を始めるべきではない。投資は自己責任であり、少なくとも投資する商品については調べる必要がある。ただ、必要以上に恐れる必要もない。誰も初めて言葉を発する時や初めて歩く時は上手いかわからないものだ。「自己責任」という言葉はネガティブに受け取られがちだが、自分の手で選択することを通じて自分の人生に責任を持つ意識が増すという良い一面もある。順風満帆にはいかないかもしれないが、選択の積み重ねは自信に繋がる。自信に満ちた生活はきっと人生に良い作用をもたらすだろう。筆者は、投資からは資産形成以上に学ぶことが多いと考えている。これを機に資産運用を始めてみてはどうだろうか。



資産形成の問題を 再考してみる

